血液内科のこの一年

滋賀医科大学消化器・血液内科（第二内科）同門会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、令和 4 年 10 月に内科学講座血液内科が設立されてから 1 年が経ちました。中々、血液内科の医局スペースが決まらずどうなることかと思っておりましたところ、馬場忠雄名誉教授のお力添えにより、実験実習支援センター内にお部屋を頂戴できることになりました。馬場先生にはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。誠に有り難うございました。2 階と 3 階に分かれていますが、合わせると消化器内科医局の居室部分の面積に相当します。但し、実験スペースがありません。安藤先生にはこのような事情をご理解いただき、血液内科医局員が引き続き消化器内科実験室で実験することについてご許可を賜りました。安藤先生の寛大なお心遣いに深く感謝申し上げるとともに、消化器内科医局員の方々にはご迷惑をお掛けしますことをお詫び申し上げます。このように、組織上は独立したとはいえ、本同門会の諸先生方のお力添えなくして血液内科は一歩も前へ進めません。今後とも変わらぬご指導の程を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

血液内科の診療につきまして、少しお話しさせていただきます。近年、一昔前には想像もできなかったスピードで新規治療薬が上市されています。例えばこの 1 年間だけでも、慢性 ITP に対する血小板破壊抑制薬、TTP に対する微小血栓形成阻害薬、寒冷凝集素症に対する抗 C1s モノクローナル抗体、悪性リンパ腫に対する二重特異性抗体、真性多血症に対するインターフェロン製剤、PEG 化した L-アスパラギナーゼなどが発売されました。これらの新規薬剤について作用機序を理解し、効果と副作用を熟知しておく必要があります。そこで、COVID-19 流行のため休止していた製薬会社による新薬説明会を今年のゴールデンウィーク明けから再開するとともに、新たに論文抄読会を開始しました。また、間葉系幹細胞や CAR-T 細胞など、血液内科領域の再生医療等製品は 6 品目まで拡大してきました。これに対応すべく 2023 年 1 月 1 日、輸血部を輸血・細胞治療部へ改称し、再生医療等製品にも対応可能な新しい製剤管理システムを導入しました。こうして採用された間葉系幹細胞は、早速、移植後 GVHD に対して効果を発揮しています。最新の治療法を提供できる環境を一つ一つ整備しながら、そこに滋賀医科大学血液内科医師が元より強く持っている患者さんに寄り添う気持ちを加えることで、「地域の全ての血液内科患者さんに滋賀医科大学で治療を受けて良かったと言っていただける血液内科」を築いて参ります。

COVID-19 流行に続き、季節外れのインフルエンザ流行、物価上昇、医師働き方改革など厳しい医療環境の中にありますが、本同門会諸先生方の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

令和 5 年 10 月吉日

滋賀医科大学内科学講座血液内科　教授　村田　誠